

仲見世商店街

仲見世商店街は宇佐神宮の主な参道の周辺にあります。郷土料理を提供する飲食店や、さまざまな地元の名物やお土産を販売するお店が並んでいます。この商店街は、1932 年から 1941 年に宇佐神宮で行われた昭和の大造営の頃に、宇佐神宮西口の近くにあった神明町という商店街に代わって作られました。現在は、近隣住民や神社の参拝者、観光客などを対象とした活気あるエリアとなっています。

郷土料理

仲見世商店街の多くの飲食店では、宇佐市や大分県の特徴的な料理を用意しています。人気メニューは、宇佐風のから揚げ、地元のネギを使った香ばしいパンケーキのようなねぎ焼き、揚げ物や鍋料理として提供される宇佐ドジョウ、川蟹を使ったガン汁というスープなどです。

多くの仲見世にある様々なギフトやおやつは、地域で栽培されている名物のカボスや柚子という柑橘系の果物で作られています。シーフードが好きな人は、近くの海で水揚げされ、乾燥され、さまざまな家庭料理に組み込めるようにパッケージ化された赤エビの商品などを見つけることができます。宇佐市は大分県で最も酒蔵が多く、日本最大の大麦焼酎の荷主であるため、伝統的なものに加えて最近のアルコール飲料も幅広く取り揃えています。

宇佐ひょうたん

ひょうたんは、日本では縁起の良い物とされています。宇佐神宮にまつわる伝説に登場するため、特に宇佐市でお守りやお土産として有名です。3 世紀を舞台にした物語によると、神功皇后はひょうたんに母乳を入れて、息子（後の応神天皇であり、現在は宇佐神宮で八幡神として崇拝されている）に与えました。ひょうたんの飾りはお店によく見られ、宇佐神宮を訪れる人は絵馬の代わりに願掛けのひょうたんを吊り、神々に願いを伝えることもできます。仲見世から遠くない勅使街道沿いには、調味料容器や花瓶、縁起物など、くり抜いたひょうたんを使った商品を専門に扱う老舗店があります。

宇佐飴

伝説的な由来があるとされているもう一つの品は、宇佐飴という甘い麦芽と米からできた飴です。宇佐ひょうたんに似た物語では、神功皇后は、応神天皇に与えるために、母乳の代わりに液状の宇佐飴を使ったとされています。宇佐飴は通常白く、素朴でまろやかな甘さがありますが、近年は他のフレーバーも広まっています。食べるときに細かく割る小さな板状で販売されているものもあれば、一口サイズに事前にカットされているものもあります。ただし、宇佐飴は噛むのではなく、ゆっくりと口の中でとろけるままにして食べるものと覚えておいて下さい。飴の甘い味と独特の物語に加えて、天然の材料を使っていることや長い賞味期限のおかげで、宇佐飴は人気のギフトとなっています。